

# 財政の役割について考える

第2回

政府の規模…大きな政府と小さな政府

コロナ禍に対応するため今年度第1次・第2次補正予算が組まれ、今また第3次補正の動きがあり、当初予算より大幅に規模が増大しています。このような現状をみながら、財政の役割について考えていきます。実際に国・地方などの公的部門が財政上どのような役割を担っているのかなどについては、国、時代や今回の様に外部環境によって異なります。歴史や価値観・文化などによって国財政の役割・規模は異なります。しかし、その中にも共通した考えがあります、キーワードは「受益と負担」です。

公的部門は道路の整備や防衛といった民間では供給が難しい財・サービスの提供を行います。年金や医療、介護といった社会保障サービスの提供も行います。さらに、国民に10万円を配った特別定額給付金のような非常時の家計や企業への支援も行っています。政府が支出（歳出）を行うことで実行され、それによって家計は便益を受けることとなります。

しかし、政府が歳出を行うためには、そのための財源が必要となります。そこで、家計や企業から、租税（税金）や社会保険料などを徴収して財源の調達を行います。



齊藤 仁

たとえば、買い物をした額に10%の課税を行っている消費税（地方消費税2.2%を含む）や所得段階に応じて課税を行っている所得税などが身近な税金でしょう。

世界各国の「受益と負担」の傾向を見ていくと、大きく2つのタイプに分けることができます。

「大きな政府」と「小さな政府」です。「大きな政府」は、租税や社会保険料などの「負担」は重いです。しかし、充実した社会保障サービスや公共サービスが提供され、「受益」も大きい国です。代表的な国としては、スウェーデンなどが該当するでしょう。同国では、20歳までは医療費が無料であり、教育費も大学までの授業料は無料であるなど充実した福祉政策を実施していることで有名です。一方、当然ですが、国民の租税や社会保険料などの負担（対国民所得比）は約60%になるといわれており、

負担も重いのです。それとは反対に、「小さな政府」は、租税や社会保険料などの「負担」は重くないが、社会保障サービスや公共サービスは充実しておらず「受益」も小さい国です。これの代表的な国としては、アメリカなどが該当するでしょう。救急車で搬送してもらった場合でも料金が生じるなど、日本では公共サービスとして提供されていることが、有料で提供されています。しかし負担に関しては、（対国民所得比）30%を超える程度であり、そこまで負担が重くないのです。

日本はどうかというと、過去は社会保障給付などが充実していた一方、税などの負担も重くない「小さな政府」でした。しかし、経済の成熟とともに、社会保障給付などが拡充され、また消費税が創設されるなど税目も増え負担も大きくなっていきました。今後の日本の財政を考える上では、どの程度の便益を期待して、負担をずるのかを考えなくてはなりません。また、政府の財政の役割を考える際には、「市場（しじょう）」をどう評価するかというのもポイントになってくるので、次回以降で話をさせていただきますと思います。

（和歌山大学経済学部 准教授 博士  
（応用経済学）

第122回 わだい浪切サロン オンライン版(Web会議システム「Zoom」使用)

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

## ドキュメンタリー「Yokosuka1953」の制作背景

話題提供者 **木川 剛志** 氏 和歌山大学 観光学部教授

Web会議システム「Zoom」による講演！  
参加費無料・事前登録必要

日時 **12月16日** 19:00  
20:30

事前申込み制になっています。登録フォームにてご登録いただいた後、受講方法をメールなどでお知らせいたします。QRコード及び下記アドレスよりご登録ください。

登録アドレス：<https://forms.gle/6Z8NpMa27eMVTPNT9>



お問合せ先 ▶▶▶ 和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 南海浪切ホール2階  
電話/FAX: 072-433-0875